



2020年11月号 (隔月発行) 発行所 セブ日本人会 5th Floor Clotilde Commercial Bldg. ML Quezon St. Casuntigan, Mandaue City, CEBU TEL: (032) 343-8066 FAX: (032) 343-7663 発行人: 松田和人 編集人: セブ日本人会 http://www.ja-cebu.com info@ja-cebu.com

2020年も残り2ヶ月を 迎え思うこと



セブ日本人会会長 松田 和人

今年も残すところ2ヶ月となりました。このセブ島通信を読んでいただいたり、いろいろの思いを持ってもらえると思います。

フィリピンでも通常であれば、クリスマスに向けて賑わいを増している頃ですが、ショッピングモールに行っても例年とは違います。確かに一時期よりは車や人の動きは活発になりましたが、元に戻ることは当分ないのだからと感じています。しかし日本のニュースを見ている「Go To Travel キャンペーン」などで今まで厳しかった業種も活気を取り戻すきっかけを得ているように安心します。またこのセブへもコロナ中に日本へ帰国していた方が戻ってきたということを知るとほっとした気がします。

も75歳を越した日本という後期高齢者です。政治や経済で若返りが大切だと言われる中、やはり先輩に頼っているのが世の中の実態です。個人的に周りを見渡しても70歳を超えた方々のパワーに驚くことがあります。私なりの分析ですが、現役を引退せず活躍されていることが活力の源ではないでしょうか？ここフィリピンでも寿命は日本よりかなり短いのですが、がんばっておられる高齢者は、やはり気力がある方が多いようです。

私が約20年後、70歳を越してどのような状態でいられるかは今の生活から生きている、その時に生きがいを持ち、人に求められているかが大切だと痛感しております。

私事ですが、趣味と健康維持を兼ねてジョギングをしています。この自粛期間、マスク着用、チェックポイントがあること、どうしても通常よりも走る距離も減っております。いろいろなマスクはありますがやはりマスクをして運動すると息苦しさは軽減されません。またチェックポイントがあることで外出用パスの曜日制限もあり、走る日まで制限されます。場所によっては走っている途中でも検温を求めるポイントもあります。フィリピンで生活されている皆様もそれぞれの生活の中で不自由を感じておられるとお察しします。

その中で新しい工夫も生まれてくるのだとも思います。

セブ日本人会も同じようなことが言えます。このコロナという未曾有なことがおき、その中で会長職を任務しているから気付くこと、考えさせられることがあります。これまでの歴史の中で必要とされる行事をやることも日本人会の大きな役割でした。今年は一切の行事を中止とし、終戦記念日に開催している戦没者慰霊祭までも一部の理事のみという形での慰霊となりました。これも世界中のイベントが中止、延期、そして規模縮小などと普通にできていたことができない世の中になりました。逆にこの時期があったからこそ、良かったこともありました。日本人会の役割である会員交流もコロナの影響で直接の交流はできませんでしたが、この時期ならでの電話、メール、そして先回のセブ島通信の記事でも

濃密なコロナの日々



日本人会副会長 櫻井 絹恵

2020年のような激動の年はこれまでであったろうか。まさかのパンデミックが世界中の人達の生活と人生を驚天動地させるほど一転させた。

世界中で大都市だけでなく小さな街までも次々にロックダウンされ、人の往来や交通の移動が止まった。セブでも3月28日からロックダウンが始まったが、それがまさかのギネスブック殿堂入りする世界最長のロックダウンになるとは誰も予想すらしていなかった。

我が家では半年分の米、食料や生活物資や水、プロパンガス、発電機用のディーゼルを買い込み、ガチな

掲載されましたオンライン懇親会から多くのご縁やご支援をいただきました。懇親会には開催主催者の荒木理事とともに皆勤しておりますが、少人数ながら意義もあり、参加いただいている方からはご満足いただいていると思います。そろそろ直接の対面懇親会という声もいただいておりますので、やり方を含め検討していきます。私も最初はオンラインでの懇親や会議も新鮮だったり、オンラインだけで良いのではないかと思いましたが、やはり実際に顔を見ながら話をする方が格段に良いと最近特に感じます。

日本人が減り、コロナによる影響が今後どのようなものかわからないセブの社会で日本人会が果たす役割を考え、来年に向けての準備をしていきたいと思います。何かご意見がございましたら、よろしくお願ひいたします。

籠城生活を想定して自宅に籠った。希望の無い毎日が重く押し被さってくる感じがした。セブ島はビーチリゾートの観光地であり、マニラに比べ治安も良いことから英語学校で英語を学ぶ若者を中心にした多国籍の語学留学生が増えている。今回の新型コロナ感染拡大を受けフィリピン政府が3月13日に語学学校を含む全ての学校に対して一斉に休校指示の通達を出した。

フィリピンでは国内線および国際線を減便またはロックダウンによる運行停止で2000人以上の学生や観光客、また在留邦人が日本へ戻れなくなった。セブ島からの日本への脱出は空路

しか無い選択肢。フィリピン政府は感染拡大防止策として入国に関しては厳しく、外国人の出国に対しては可能な限り支援する方向で対応した。

3月 セブ日本人会と有志の方々が心をひとつにして3月20日に第一陣の臨時便2機で帰国を希望する日本人を成田へ飛ばした。民間の臨時便の為、フィリピン航空運賃は自己負担で片道1000ドル以上と高額な運賃に吊り上げられた。

それでも日本へ帰国させないと感じるリスクと休校による寮の閉鎖の為、滞在先の無くなった学生達の治安確保のために口がカラカラになるまで説得して特別便に乗せた。シンドラーズリストさながらの命を守る搭乗者リストを作成して、ロックダウンで交通手段のない人達にボランティアが車を出したり、許可を取るなど対応した。

空腹を我慢しながら頑張るフィリピン航空の職員と日本人有志ボランティアを支えるため、炊き出し隊も結成し飲み物や家庭料理で腹から応援した。PALの支店長も我々の団結力を絶賛し、この最強のチームがバックアップについてくれるのであれば、幾便でも特別便を出すと言われた。不可能を可能にし伝説を作れたのは、松田会長が先頭に立ち、皆が一丸となりボランティア精神の汗と涙の結晶があったからこそ出来たのだと思う。

フィリピン航空8便と韓国系航空会社2便の特別便を飛ばし22000人を帰国させる事ができた。この偉業は多くのメディアからも取り上げられ、高く評価された民間レベルでの支援であった。

6月後半 セブ市では全国一の新型コロナウ

イルスの感染者数で1日350人以上が感染し、セブ市が全国感染者数1割を占めるホットスポットになってしまった。

中央政府がセブ市のコロナ対策を調査介入する事態となり、全国で唯一の防疫強化地域延長になった。ピサヤ地方コロナ対策総括責任者シマツ環境天然資源相が指揮を取った。重武装の警察特殊部隊(SAF)160人も投入され、街は国軍の兵士が溢れ各地で検問所が設けられた。

格検問所は通行バス無しでは猫一匹も通れなくなった。特に越境では厳しかった。国軍の装甲車が走っているのを普通に目にする様になり、緊迫した空気が街を覆った。感染者数の多いバランガイは厳格な防疫封鎖が実施された。中心地にあるバランガイリスもそのひとつで、NPO誰でもヒーローの奨学生が居住する地域でもある。感染リスクが高い環境で、内山代表は支援者の協力を受けながら奨学生だけでなく地域住民の命を繋ぐ支援活動を継続したのには頭が下がる。

セブ州の病院で医療崩壊が起こり深刻な状況に陥った。身近なフィリピンの友人達10人が感染し次々と亡くなった。セブ日本人会の会員で観光業に携わっていた前野君が脳卒中で倒れ、満床を理由に複数の病院をたらい回しにされたあげく、適正な治療を受けることもなしに命を落とす事は大変無念であったと思う。前野君の御冥福を心より祈るばかりだ。

運命を変えた友人の決断

私事だが隣の事務所のガードが感染していると分かり、自らの家族を自主的に抗体検査を受け陰性を確認した。内には孫だけでなくガード家族の子供3人も含め4人の子供がいる。

コロナ時系列

日付	発表元	内容
1月21日	DOH	フィリピンで初の新型コロナウイルス患者確認。
1月30日	Immigration・DOTr	中国から入国制限開始。
1月30日	DOH	フィリピン2例目。
1月30日	DOH	緊急事態と発表。
2月1日	DOH	フィリピンで初の死亡者。
2月2日	航空会社	中国本土、香港、マカオへのフライト欠航。
2月5日	DOH	フィリピン3人目の症例。
2月10日	Immigration・DOTr	中国から入国禁止措置開始。
2月26日	Immigration・DOTr	韓国から入国制限開始。
3月6日	DOH	フィリピンではぼ1ヶ月ぶりの患者確認。
3月6日	DOH	3月6日から毎日陽性者が発生し、本格的な対策が始まる。
3月12日	フィリピン政府	ドゥテルテ大統領が会見をし、3月15日からマニラ首都圏の陸海空路を封鎖すると発表。
3月13日	TESDA	3月16日から語学学校は休校するよう通達。
3月14日	航空会社	マニラーセブ便が欠航。
3月15日	フィリピン政府	マニラ首都圏を対象にコミュニティ隔離措置を実施。
3月15日	セブ州	セブ島で3月20日から外国人に対する入国制限開始。
3月15日	セブパシフィック航空	国際線の欠航が相次ぐ。
3月16日	フィリピン政府	公立学校授業・活動の停止。
3月16日	フィリピン政府	マニラ首都圏を対象としていたコミュニティ隔離措置をルソン島全域に拡大。
3月16日	セブ市	セブ市で夜間外出禁止開始。
3月16日	ラプラブ市	ラプラブ市で夜間外出禁止開始。
3月16日	マンダウエ市	マンダウエ市で夜間外出禁止開始。
3月17日	フィリピン政府	外国人のフィリピン出国はいつでも可能と発表。
3月17日	フィリピン航空	国際線の欠航が相次ぐ。
3月18日	フィリピン政府	ECQの内容を明確化。
3月18日	DOH	セブ島1例目の患者。
3月18日	セブ州	国際線の欠航が相次ぎ、日本帰れない人が出る。
3月19日	DFA	3月22日から外国人の入国制限開始と発表。
3月19日	セブ市	娯楽施設の営業中止を命令。
3月19日	セブ市	モール臨時休業開始。
3月23日	セブ州	セブ島でレストラン店内飲食禁止。
3月25日	セブ州	セブでECQ実施のアナウンス。
3月25日	日本外務省	フィリピンに対し、感染症危険情報の発出。
3月26日	日本法務省	フィリピンを入国拒否対象地域に指定。
3月26日	日本厚生労働省	3月28日以降の日本入国規制強化を発表。
3月28日	セブ市	セブ市ECQ開始。

日付	発表元	内容
3月29日	ラプラブ市	ラプラブ市ECQ開始。
3月30日	セブ州	セブ島ECQ開始。
3月30日	マンダウエ市	マンダウエ市ECQ開始。
4月2日	セブ市	マスク着用義務化。
4月7日	フィリピン政府	マニラ首都圏ECQ延長。
4月15日	DOH	セブで患者数急増。
4月17日	セブ市	バラングイLUZをトータルロックダウン。
4月25日	セブ市	セブ市のECQを5月15日まで延長。
5月1日	フィリピン政府	セブ市、マンダウエ市、ラプラブ市のECQ継続。
5月16日	フィリピン政府	セブ市、マンダウエ市ECQ継続。ラプラブ市GCQへ緩和。
6月1日	フィリピン政府	セブ市、マンダウエ市がECQからGCQへ緩和。ショッピングモール、タクシー再開。
6月2日	航空会社	国内線再開。セブーマニラ経由で日本帰国可能になる。
6月16日	フィリピン政府	セブ市はGCQからECQへ戻る。セブ市はショッピングモール閉鎖、タクシー運行停止。
6月22日	フィリピン政府	ドゥテルテ大統領が会見で、セブ市の状況悪化について言及。環境大臣をセブに派遣することを発表。
6月23日	フィリピン政府	セブ市に警察官や軍の応援を派遣。監視・取締りを強化。
6月23日	セブ市	セブ市は発行済み検疫パスを全て無効とし、新しいパスを配布予定と発表。
6月25日	セブ市	セブ市内12のバラングイでトータルロックダウン実施。
6月26日	DOH	セブ市49のバラングイで集団感染と発表。
6月26日	セブ市	セブ市は新しいパスの概要発表、配布も開始。
6月26日	セブ州	セブ市との境界を封鎖することを発表。
7月1日	フィリピン政府	セブ市はECQ継続。マンダウエ市、ラプラブ市はGCQ継続。
7月2日	フィリピン航空	セブー成田便再開。
7月16日	フィリピン政府	セブ市はECQからMECQへ緩和。マンダウエ市、ラプラブ市はGCQ継続。
7月25日	セブ州	MGCQ地域での観光アクティビティを再開。
8月1日	フィリピン政府	セブ市はMECQからGCQへ緩和。マンダウエ市、ラプラブ市はGCQ継続。
8月1日	フィリピン政府	移民ビザ保持者の入国を許可。
8月15日	フィリピン政府	公共交通機関利用時にフェイスシールドの着用を義務化。
8月16日	フィリピン政府	セブ市、マンダウエ市、ラプラブ市GCQ継続。
9月1日	フィリピン政府	セブ島全域はGCQからMGCQへ緩和。
9月29日	フィリピン政府	リタイアメントビザ保持者の入国許可。
10月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを10月31日まで継続。
11月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを11月30日まで継続。
11月1日	フィリピン政府	47(a)(2) ビザなど、一部のビジネスビザ保持者の入国許可。

現在わかっているセブの 明るい情報



長い長いトンネルを進んでいる状態が続いていますが、ようやく先の方に少し明かりが見えてきたのではないのでしょうか。

日本人会副会長 藤岡 頼光

3月15日から続くコミュニティ隔離措置、すなわちロックダウンはついに8ヶ月目を迎えようとしています。

しかし、一時はセブだけで1日に数百人にも発生した感染者も日によっては一桁にまで減ってきています。コミュニティ隔離措置もECQ(強化されたコミュニティ隔離措置)からMGCQ(修正を加えた、一般的なコミュニティ隔離措置)に変わりだいたい自由になってきました。

現在、わかっている明るい情報をまとめてみます。
*今後変更する可能性がありますので、最新情報は各公式サイトからご確認をお願いします。

《セブ島⇄日本のフィリピンエリアインの再開》
12月からセブ⇄成田便だけでなくセブ⇄大阪、セブ⇄名古屋の便が戻ってくるアナウンスがありました。

もちろん変更の可能性がありますが今のところ以下の予定が発表されています。

【セブ島から日本へのエアライン】
■セブ⇄成田(12月1日から)
PR 434 8:00発⇒13:25着
月、火、木、土、日
■成田⇄セブ(12月1日から)
PR 433 14:25発⇒18:50着

【11月1日から入国可能なビザ】
■フィリピン経済区庁(PENZA)の登録企業や政府プログラムに参加する外国人が取得するビザ(47(a)(2) visas)

■オーロラ特別経済特区庁(Aurora Pacific Economic Zone and Freeport Authority)が発行したビザ
■スービック湾首都圏庁(Subic Bay Metropolitan Authority)が発行したビザ

月、火、木、土、日
■セブ⇄大阪(12月2日から)
PR 410 9:15発⇒14:25着
月、水、金、土、日

■大阪⇄セブ(12月2日から)
PR 409 15:25発⇒19:00着
月、水、金、土、日

■セブ⇄名古屋(12月2日から)
PR 480 9:10発⇒14:20着
水、木、日

■名古屋⇄セブ(12月2日から)
PR 479 15:20発⇒19:00着
水、木、日

《PEZAビザなど一部のビザで外国人が入国緩和》
そして今月11月からPEZAビザなど一部のビザで外国人が入国緩和になっています。

10月22日に省庁間タスクフォース(IATF)から発表された情報によると、PEZAビザなどビザを取得している外国人の入国を11月1日から緩和することになりました。

入国時には入国後の一定期間の隔離などが条件となっていますが、大きな前進だと思います。

《観光客の受け入れを検討》
そして、そして、待望の観光客に
関しても、感染率の低い国からの受け入れを検討始めました。

フィリピン内閣官房長官のノグレス氏によると新型コロナウイルス感染症の感染率が低く中レベルの国からの観光客に対する制限を緩和するそうです。

現在、フィリピン保健省(DOH)が海外からの観光客を受け入れるにあたってガイドラインの作成を始めました。DOHのガイドラインによると感染率が低い国や中程度の国から来る観光客はフィリピンへの入国を許可される可能性があるそうです。

もちろん、それぞれの国による新型コロナウイルス感染率の違いによって検査が必要になるでしょうがこちらも大きな1歩だと思っています。

《コミュニティ隔離措置も終盤》
セブ市内は未だに夜11時から朝5時までの外出が禁止され、レストランも夜の11時までには閉まり、アルコールの販売に制限があります。また、カラオケは平日の朝7時から夕方5時まで禁止になっています。

方5時まで禁止になっています。まだまだ苦しい生活が続いていますが、将来を見ると、セブと日本の直行便が復活し、ビザが緩和され、観光客の受け入れも検討され始めました。少しずつ良くなってきているのではないのでしょうか。長い隔離生活も終わりに近づいていると言えます。

《気を引き締めなくてはいけない》
出口が見えてきた今こそ、気を付けないといけないことだと思います。これからクリスマスに向けて犯罪が増える時期です。今年も新型コロナウイルスによる失業で治安が悪化していると言われます。今後、ドンドン規制が緩和されると思いますが、セブ島の生活にはくれぐれも注意して頂きたいと思っています。

今まで苦勞してきた隔離生活の終わりが近づいてきた今こそ、兜の緒を締めて最後まで無事に終わらせましょう。
セブ日本人会会員の皆様は年末を気持ちよく過ごせることを祈っています。

本当にコロナ後に戻ってくるのか!?

セブ島といえば、リゾート観光!

8年間セブ島と関わりを持ち、住んでいて、フィリピン人の妻と結婚しており、それなりにセブ島が好きなのですが、リゾート観光や深夜

チと一緒に筋トレをする↓お風呂に入る↓寝る
極めて健康的な生活を送っていますが、これは平日だけでなく、土日も繰り返しており、完全にマンネリ化しています。

今まさにこの記事を土曜日に書いているのですが、今日もスタバからのアヤラでした(笑)。
セブ島のフィリピン人はだいたいコロナを気にしなくなってきましたが、モールを毎日彷徨っていて、やはりお客さんはまだまだ少ないですね。それは小さい子供を連れた家族が出かけられないこと、お金を持っているシニア層が出かけられないことが大きいと思われています。

では、現在解除されつつあるそれらの状況が改善したら、元に戻るのでしょうか?
私はフィリピンのような元気な国でも、以前のようにモールも戻らないと予想しています。

日本はほぼコロナを気にしない状況ではありますが、電車は以前のようには混んでいないですし、オフィスも在宅でできることはリモートワークになっています。

発展途上国のフィリピンではそこまでリモートワークという概念がないですし、インターネットのインフラが日本並みに整っているとさえ言えないので、さすがに日本のようにはならないと思います。しかしながら、外国人もほほいなくなつた今、この状況を見る限り……。

私は「数年戻らないどころか、二度と戻らないかもしれない」とさえ思うに至っています。
ビジネスをしている方の中には、いつかお客さんが戻る前提で話をしていますが、ちょっと雲行きが怪しくなりつつあると思いませんか?
私もフィリピン留学のビジネスをしていますので、戻って欲しいとは切に願っています。しかし、戻ると

思われる来年や再来年には、すでにネットを使った新しい英語ビジネスの形態が出来上がっており、戻る必要がなくなっているかもしれない。
恐らく、各ビジネス領域において、以前とは違ったビジネスモデルがこれから数年で発展するのではないかと思っています。

今回花が咲いたデリバリー産業やZOOMを使ったWebサービスは一気に今年伸びました。でもまだ全部今年起こったことです。
今、それらのサービスは進化しつつあります。例えば、ZOOMはOnZoomといった、オンライン講座をスタートしました(まだアメリカ本土のみ)。
<https://on.zoom.us/e/view>
ネット回線が数年で5Gになれば、景気が回復してくるころはZoomでも大抵の教育が出来てしまう世の中になるかもしれません。

なんと、フィリピン留学が止まっている間にZoomを使った英語学習業界は進化し続けるわけですから。
観光はどうでしょうか? 観光はセブ島が他の国とどれだけ差別化されているか、によると思います。お客さんの頭の中に、セブ島でなければダメだと思われるのなら、戻ってくると思えますが、そうではないなら厳しいでしょう。海外旅行の優先順位は低くなってしまおうと思われそうです。

そうならば以前価値がある、復活すると思っていたものは無価値になります。
であれば、戻るのを待つのではなく、新しい価値の芽が出始めているところに、今からシフトしていくべきタイミングなのかもしれません!
5スターホテルだって、コロナ後に大きく変化
先日、値段が安いというのもある



日本人会理事 斉藤 淳



て5スターホテルの一つ、クリムゾンリゾートに泊まりました。泊まってみたものの、安い分、プールもフルオープンではないし、レストランも人が入っていないので、ほぼ閉鎖、部屋もある程度一箇所にまとめて泊らされます。ファイアーダンスももちろんありません。アクティビティもほぼなし！

食事もbuffetの代わりにある程度一人一人用になりましたが、高品質に切り替わったわけではなく、安くなった感じがします。

要は価格においてお得感には特ではありませんでした。これは以前Jパークにコロナ後に泊まった時もそう感じました。

しかし、そもそも今までは観光客に向けてのサービスや品質でしたが、フィリピン人にとってそれらの基準が必要かと言われるとそうでもないかもしれません。

フィリピン人はホスピタリティ、食事の質、ベッドの質なんかよりも、とにかくプールやビーチが使えて何回も利用できる「リーズナブルな5スター」の方がウケるのではないのでしょうか。

髪の毛が一つ落ちていようが、気にしないのがフィリピン人のいいところ。

子供を持つフィリピン人が多いた



め、部屋は高品質よりも大きさ、プールが大きい所でダイナミックに楽しめるOKです。

星野リゾートの星野代表はこれからは、地元で愛されるマイクロツーリズムだと話していましたが、まさにそうなんじゃないかと思えます。つまり、いつ戻るかわからないものに期待するのはなく、今近くにいるファンのためにサービスを改めて展開していく必要があるのではないか、と思います。

私自身もいくつかのクライアントや読者に支えられて今がありますので、近くにいるファンを大事にしたサービスを展開できるように心がけたい、と思った今日この頃でした。

まさかセブ観音があんな事になるなんて……

～修理費ご寄付のお願い～



今日、フィリピンは、国民の大半が日本人に親しみを抱く親日国家として知られています。

しかし、まさかフィリピンが現在のような親日国家に生まれ変わるとは、第二次世界大戦が終わった直後の状況からすれば、想像さえできないことです。

今からおおよそ80年前にあたる1941年、日本は米軍基地のあるハワイの真珠湾を攻撃し、アメリカを中心とする連合国との戦争に突入しました。いわゆる太平洋戦争です。

太平洋戦争において、最大の激戦地となったのが、当時はアメリカの植民地だったフィリピンです。フィリピン諸島にて日米両軍は激しく戦い、日本人戦死者は51万人を超えています。外地での犠牲者数としては、戦時中最大です。

ただし、多くの犠牲者が出たのは日本だけではありません。激しい戦いが繰り広げられたフィリピンの島々には、多数のフィリピン人が暮らしていました。フィリピン人の戦死者数は111万人以上といわれています。

戦後75年という長い歳月が過ぎた今、太平洋戦争に関する歴史認識はさまざまです。ここで、その是非を問うことはしませんが、日本人にとってもフィリピン人にとっても不幸な時代であったことは間違いありません。

二度とあのような戦禍を繰り返さないためにも、現代の平和が多くの犠牲者の屍の上に成り立っているという事実を、私たちは忘れるべきではないでしょう。

だからこそ、フィリピンの戦いによりこの地で亡くなった全ての人の慰霊を、私たちセブ日本人会では毎年欠かさずとなく続けてきました。

慰霊のシンボルとして親しまれてきたのが、セブ島のマルコポーロホテルの一角に建つ、台座を含めて高さ4・6メートルに及ぶ青銅像「セブ観音」です。

毎年8月15日には、日本とフィリピン双方の遺族をはじめとして多くの人々が集い、セブ観音慰霊祭が執り行われています。慰霊を行うとともに、戦時中にセブで何があったのかを語り継ぐことを目的としています。

戦史だけが歴史ではありません。日本人もフィリピン人も祖国のために、そして祖国に暮らす父母や弟妹、妻や子供たちのために、多くの軍人が散華したことは事実ですが、戦禍の巻き添えとなり命を落とした民間人も、あまたいました。

戦時中の記憶を語り継ぐことは後世に残された私たちの責務であること、セブ日本人会では考えています。

ところが、日比両国の慰霊のシンボルであったセブ観音像の一部が、心もとない人によってもぎ取られ、盗まれるという事件が起きてしまいました。

盗難は2回に分けて行われ、1回目は観音像の背にある光背が、2回目は観音像が手にした蓮の花が無残にもぎ取られ、何者かによって持ち去られたのです。

セブ日本人会では八方手を尽くして盗難の行方を追いかけてきましたが、残念ながら未だに発見には至っていません。

慰霊と平和への誓いを新たにするための象徴であったセブ観音像が破損したことは、私たちセブ日本人会にとって大きなショックとなりました。

しかし、毎年慰霊祭に訪れてくれる遺族の方々のためにも、2021年の8月15日まではセブ観音像の修復を行いたいと決意しています。

ただ問題は、セブ日本人会の会員数は百名前後に過ぎないため、セブ観音像修復の予算がままならないことです。

そこで、皆様のご寄付にて修復のための費用を捻出したいと考えています。

セブ観音が建立されたいきさつ、及び日本とフィリピンに横たわる憎悪と赦しの物語について、これから紹介させていただきます。

セブ観音像の趣旨に賛同していただける方のご協力を、心待ちにしております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



セブ観音と神風特攻隊

故国日本から離れ、異国のフィリ

ピン・セブ島で暮らす私たちにとつ

て、セブ観音は戦火に包まれたあの日のセブと、現在をつなぎ合わせるメモリアルとしての役割を果たしてきました。

かつて、この地で、民間人を含む多くの同胞の命が失われ、まだ20歳そこそこの若い兵たちが散華しました。

マルコポーロホテルの厚意によって建立を許されたセブ観音がある場所は、戦時中セブが米軍の空襲にあつた際、迎撃に飛び立ったゼロ戦の一機が撃墜され、墜落した地点です。

ここからほど近い中腹に、「日の丸陣地」と呼ばれる日本海軍の拠点が残っていました。上陸した米軍は日の丸陣地に襲いかかり、激しい戦闘の末、多くの日本兵が命を落とされています。

かつては、このあたりに六基の卒塔婆が立っていました。それらを一カ所にまとめ、永久碑として建立されたのがセブ観音です。かつてセブで戦ったセブ海軍部隊や陸軍挺身第3、第4連隊所属の元日本軍人有志によって建立されました。

セブ観音が見据える先は、かつてセブ基地があつた場所です。現在は経済特許区ITパークとして繁栄している場所には戦時中、日本海軍の航空基地があり、神風特攻隊がここから出撃しました。

「神風特攻隊」といえば映画化もされた百田尚樹著「永遠の0」を観た方、読んだ方も多いことでしょう。

神風特攻隊が実戦に投入されたのは、フィリピンの戦いが初めてです。説明するまでもありませんが、神風特攻隊はゼロ戦などの戦闘機に爆弾を装填し、機体ごと敵空母などの艦船に激突する任務を負った部隊です。

「九死に一生」という言葉がありますが、神風特攻隊は一度飛び立ったら最期、生きて生還する望はほとんどありません。まさに「十死零生」

が必至の特殊部隊でした。

特攻機による戦死者第1号として敷島隊の関行男大尉が有名ですが、実は関大尉より4日早くセブ基地から特攻機として出撃したまま未帰還となつた機がありました。大和隊の久能中尉です。関大尉が「特攻第1号」と呼ばれることにちなみ、久能中尉は「ゼロ号の男」と呼ばれています。

特攻に出撃する前夜、ピアノに堪能だった久能中尉は、士官用の食堂に置かれたピアノを奏でました。セブ基地に響き渡るベートーヴェンのピアノソナタ「月光」は、いつになく澄み切つた音色であつたと記録されています。

明日、特攻にて死する身と覚悟しながら、久能中尉はどのような思いで今生最期となるピアノを奏でたのでしょうか。

ピアノの音色を聴きながら、多くの兵や整備士官はあふれる涙を堪えることができずに、泣きじゃくっていたそうです。

セブ基地から初めて特攻機が飛び立つて以来、神風特攻隊は幾度も繰り返され、多くの若者を死地に追いやりました。今日から冷静に振り返るならば、神風特攻隊が非人道的であり、非難されるべき作戦であつたことは否定できません。

しかし、20歳前後の若者の多くが特攻隊に志願し、米軍有利の戦勢をなんとか挽回しようとするの命を捧げたことは、紛れもない事実です。彼らが願つたことは、米軍の侵略から日本本土を守ることであり、彼らの家族や友人など大切な人を守ることでした。

特攻機に乗り込んだ、まだ二十歳そこそこの若者たちは、上空から一気に下降し、米空母の甲板を目標けて突撃しました。急下降のために、操縦桿を一気に押し倒すときの彼らの心境はいかばかりであつたことか……。

……。



……。

……。

……。

レイテの戦いとセブ観音

平和な時代を生きる私たちには、その当時の彼らの思いを正確に感じとることなど、とてもできそうにありません。それでも、国を守るため、ひいては故郷に暮らす父母や兄弟姉妹、妻や子供を守るためとはいえず、死に際した彼らの思いが、そのような英雄譚(たん)だけで語り尽くせるほど単純なものでなかつたことだけは想像に難くありません。

彼らを生きた崇高な理念です。しかし、彼らをそうせざるを得ないほどに追い詰めたものは明治以降、無理に無理を重ねて富国強兵につとめた日本の歴史そのものであつたともいえるでしょう。

後生に生きる私たちにできることは、彼らを顕彰し、感謝の思いを捧げながら慰霊することです。そして、神風特攻隊の物語を語り継ぎながら、二度と同じ過ちを繰り返さないように平和への誓いを新たにすることです。

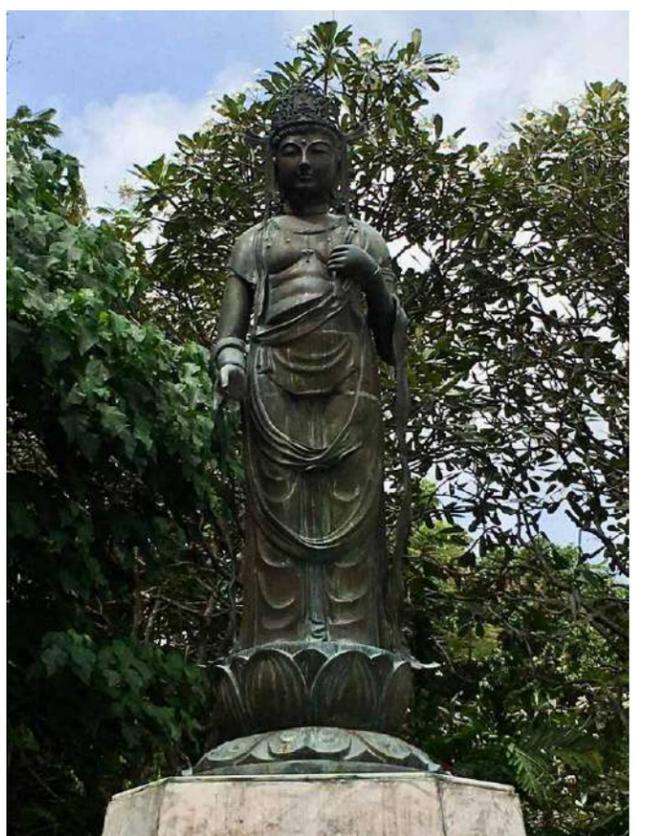
セブ観音は今も、神風特攻隊が無事上がった空を、じつと見つめています。神風特攻隊の悲劇を風化させてはならない、語り継がねばならないと、セブ日本人会は切に願っています。

セブ観音はセブ島に位置しますが、セブ島だけの慰霊にこだわることなく、ビサヤ諸島全体の慰霊を兼ねています。フィリピンの戦いにおいて最も死闘が繰り広げられたレイテ島も、ビサヤ諸島のひとつです。今から75年前、レイテ島はまさに地獄でした。日本兵にとつても米兵にとつても、そしてレイテに暮らすフィリピン人にとつても、当時のレイテは地獄の島以外のなにものでもありませんでした。

レイテの戦いに投入された日本兵は、およそ8万4000人です。そのうち生きて日本に戻れた将兵は、わずか2400人ほどに過ぎません。実に8万人以上、率にすれば97%の日本兵が、レイテ島にて土に還つたのです。

特攻が行われたのは、なにも空だけではありません。海では人間が魚雷に乗り込んで敵艦に体当たりする回天特別攻撃隊が生まれ、陸では弾薬が尽きた日本兵が銃剣を手に米軍の陣地に突撃するという斬り込み隊による特攻が繰り返されました。レイテにおいても、あまたの日本兵が斬り込み隊として戦死を遂げています。

1944年後半以降、日本軍の作戦のことごとくは陸海空からの特攻がなければ成り立たない惨憺(さんたん)たる状況を呈していました。そこには数え切れないほどの悲劇の物語が織り込まれています。世界の軍史にも例をみない特攻が繰り返されたのは、刀折れ矢尽き



た挙げ句に「最後に残された頼みの綱が精神力よりない」といった利他的な状況に追い込まれたからこそです。

平和な現在から振り返り、そのような状況を揶揄(やゆ)することは、正しいこととは思えません。たしかに当時と今では、価値観が大いに異なります。

しかし、レイテで死んでいった日本兵たちと今の私たちとを比べて、何が違うのかと思いを馳せるならば、決定的な違いは「時代」以外に求めることはできないように思えます。

もし、あの時代に私たちが生まれていたら、日本兵の一人として南方の島のどこかに送られたはずで、たとえ私たちがどれだけ平和を求めたところで、兵士一人ひとりの意思などなんの力もなく、国家の意思のままに時代に翻弄(ほんりやう)されるよりなかつたことでしょう。

その先に待っていたのは、突撃による死であつたのか、あるいは密林の中をさまよつた果ての餓死であつたのか、病死であつたのか、それとも自決であつたのか……。

もう少し生まれる時代が早ければ、レイテ島で死んでいったのは私たち自身であつたのかもしれない。

そのとき、私たちは何を思つて息絶えたのでしょうか。

おそらくは死ぬために戦う兵士など、一人もいなかったことでしょう。誰もが家族のもとへ帰還することを願ひ、生きるために必死に戦つたに違いありません。

しかし、戦死・餓死・病死・自決など死に様はさまざまであつたとしても、結果的に日本軍の多くは全滅して果てたのです。

地獄のレイテから奇跡的に生還した日本兵の多くはセブ島に転進するも、上陸した米軍とフィリピン人ゲリラ部隊に追われ、密林のなかに多くの屍をさらしました。

レイテにおいてもセブにおいても、未だに数多くの遺骨が収容されないうまま、密林に眠っています。

毎年、8月15日にセブ観音の前に響く読経の声が、彼らの魂を少しでも慰めてくれることを願うばかりです。

フィリピン人はなぜ日本人を憎悪したのか？

当時、日本にとってフィリピンは防衛上の要でした。戦局は振るわず、マリアナ沖海戦の惨敗とサイパンの失陥後は、米軍の日本本土への攻撃をなんとか止めることが、日本軍に課された使命でした。

サイパンが落ちたからには、その飛行場から飛び立つ米軍機による本土空襲を防ぐ手立てが、もはやありません。米軍による本土空襲は次第に激しさを増しました。学童疎開が始まったのも、この頃です。



と定め、日本にとりか米軍の動きを止めようと必死に抗いました。

なかでもとりわけ重要な拠点とされたのが、フィリピンです。フィリピンが米軍の手に落ちるといことは、石油などの南方資源ルートが完全に断たれることを意味してしました。そうなればもはや日本の敗戦は避けようがありません。

残り少ない航空機にしても艦艇にしても、石油がなければ動かすことさえできません。南方資源を確保するために、フィリピンは防衛上の最重要拠点だったので。

そもそも日本が太平洋戦争に踏み切ったのは、南方の石油資源を確保するためでした。どれだけ大きな犠牲を払ってでもフィリピンを死守しようと、大本営は残り少ない戦力を集め、フィリピン戦線に投入しました。

日本軍はフィリピンを守るための戦いに、まさに国運を賭けたのです。しかし、このことは日本側の都合に過ぎません。フィリピンの人々からすれば、フィリピン人とはなんの関係もないにもかかわらず、自分たちの暮らす地を一方的に戦場とされたわけですから、理不尽以外のなにものでもありません。

過去にアメリカの侵略を受けた際、フィリピンは独立をかけて米軍に抗い、米比戦争を戦い抜きました。米比戦争におけるフィリピン人民間人の犠牲者数は、20万人から150万人といわれています。

米比戦争に敗れ、一方的に植民地とされたことで米軍基地を抱えていたとはいえ、そのことがフィリピンにとっての罪であるはずありません。

ただ家族と平和に暮らしていただけに、突如日本軍が攻めてきてはアメリカに代わって彼らを支配し、その後、米軍の上陸によって再び戦火に包まれ、フィリピン人の多くが巻き添えとなって命を落としました。

多くの犠牲者を生んだことは、フィリピン人の心に日本という国家、および日本人に対する激しい憎悪を残す結果となりました。

戦時中の日本軍によるフィリピン支配が残酷なものであったことは、多くの資料が物語っています。

日本軍が太平洋戦争を戦い抜いたためのスローガンとなった「アジアの解放」は、フィリピンでは当てはまらなかった。

なぜなら当時、米議会の承認によってフィリピンは1946（昭和21）年の7月に独立する予定になっていたためです。

苦勞してようやく独立までのカウントダウンが始まっていたにもかかわらず、頼んでもいないのに日本軍がやって来てフィリピンから米軍を追い出すと、アメリカに代わって統治を始めたのです。フィリピンにとって日本軍は招かざる客であり、まさに侵略者として受け止められませんでした。

後年、日本はフィリピンの独立を認める戦略に切り換えました。日本軍政下のもとでは傀儡政権に過ぎないことは明白であり、フィリピン人の広い支持を受けることは適いませんでした。

さらに、輪をかけて事態を悪化させたのは、軍政下のフィリピン占領政策が完全に失敗に終わったことです。

日本軍によるフィリピン支配は、アメリカに深く依存していたフィリピン経済に壊滅的なダメージを与えることになりました。突然、アメリカから物資が一切入ってこなくなったことにより、

フィリピン人の生活は大混乱に陥りました。だからといって日本には、フィリピンに物資を供給する国力などありません。

物資の不足は激しいインフレを呼び込み、フィリピン人の暮らしを圧迫しました。

日々の暮らしにも困り果てたセブ住民を、さらなる苦難が襲いました。日本軍による「徴発」（強制的に物を取り立てること）です。

アジアの各地に進出した日本軍の補給は、現地調達を旨としていました。セブに配置された数万の日本兵の食糧は、セブ住民からの徴発によってまかなわれていたのです。米軍とは異なり、日本内地から米などの食糧を送る余裕など、日本軍にはありませんでした。

「徴発」という言葉からは、それほど過酷な印象を受けません。されど実際は日本軍の敗色が濃くなるにつれて、その実態は略奪へと変わっていききました。徴発を任された日本兵は食糧の提供を拒む農民をときに脅し、ときに暴力をふるい、無理やり食糧を奪っていったのです。

日本軍政下においてセブ住民の暮らしは貧窮を極め、家族が食いつなげるだけの食糧を確保するだけでも精一杯でした。家族が生きる糧となる、その貴重な食糧を日本兵に傍若無人に奪っていかれては、たまったものではありません。

徴発されるのは食糧ばかりではありません。民家に押し入った日本兵が衣服や金目のものを奪い取ることも、珍しくありませんでした。

なんらかの労役に駆り出される徴発も、セブ住民にとっては大きな苦痛でした。徴発を拒否して殴打されることもあれば、反日思想者として憲兵に逮捕されることもありまし

た。「憲兵隊の門を一度くぐった者は出て来られない」という言葉は、セブの各所でささやかれました。

こうしてセブ住民の憎悪の眼差しは、日本兵に集中したのです。日本兵に対する失望と怨嗟（えんさ）は、セブの若者たちにゲリラの戦士となる決意をさせるに十分でした。

フィリピン人の大半はアメリカの統治下だった頃を懐かしみ、暴虐な日本軍を忌み嫌いました。

「I shall return.」の台詞を残してフィリピンを去ったマッカーサーが再び舞い戻り、米軍が日本軍を追いだしてくれることを、ひたすら願ったのです。フィリピン人にとっては、米軍こそが圧政を敷く日本からフィリピンを解き放ってくれる「解放軍」でした。

解放軍である米軍の援助のもと、日本軍への抵抗を続けるゲリラ部隊に身を投じることは、フィリピン人にとっての正義でした。

日本軍の圧政が強くなるほど、ゲ

憎悪から友愛へ

戦後にフィリピンで行われたB級戦犯裁判の結果を見ても、フィリピン人の怒りがどれほど深かったのかを感じ取れます。訴追された151人のうち、実に9割以上に当たる137人が有罪となり、そのうちの6割に当たる79人に死刑が宣告されました。

戦後、日本の植民地から独立した国で対日戦犯裁判を行ったのは、フィリピンだけです。その事実だけを見ても、他の東南アジア諸国とは異なり、フィリピン人の対日憎悪には相当根深いものがあったことがわかります。

しかし、戦後の日本とフィリピンとの関係を追いかけてみると、フィリピン人の対日感情が憎しみから赦しへと次第に転換していったことが見てとれます。その契機となったのは、1953

リラ部隊に加入する若者は増え、日本軍を苦しめました。ゲリラは日本の占領政策を妨害するために、日本軍の徴発や徴用に応じた同胞を、対日協力者と見なして射殺しました。

セブの住民はゲリラの報復を恐れ、日本兵による徴発や徴用を避けるために、日本兵が近づくと逃げようになり、日本兵が近づくと逃げようになり、日本兵は、自分たちの姿を見て逃げ出すフィリピン人をゲリラの一味と見なし、容赦なく射殺しました。

ゲリラ兵と日本兵の双方から射殺される恐怖に、セブの住民は脅え

た。日本軍政下の過酷な圧政と日本軍によって甚大な犠牲（実際には米軍の空爆などによる犠牲者も多かった）が生じたことは、戦後まもなくの頃におけるフィリピン人の対日感情を、憎悪で満たしたのです。

（昭和28）年7月にフィリピンのエルビデオ・キノ大統領が、死刑囚56名を含む日本人戦犯105名全員の恩赦を行ったことです。モンテルパ刑務所に服役していた105名は全員、日本への帰還を果たしました。

ちなみに、戦後の混乱期に行われた戦犯裁判には問題も多く、冤罪で死刑判決を受けた日本兵も多く含まれていました。無実の死刑囚を救おうとする運動が日本本土で起き、戦犯の悲哀を歌った『あゝ、モンテルパの夜は更けて』がヒットしています。

キノ大統領がフィリピン国内から寄せられる猛烈な批判を覚悟してまでも、「赦し」を与える決断をするきっかけとなったのは、この哀切を帯びた『あゝ、モンテルパの夜は更けて』を聞いたからと伝えられて

セブ観音の修復費用支援のお願い

実はキリノ大統領自身、まだ幼かった子供3人と妻をマニラ市街戦の折に日本軍に殺害された過去を背負っていました。個人的な憎悪を乗り越え、恩赦によって戦犯全員を日本に帰したことは、日本国民に大きな感動を与えました。

キリノ大統領の英断は、憎悪一辺倒だったフィリピン人の対日感情を「赦し」という大河へ導く初めの一歩となったのです。

今日のフィリピンは間違いなく親日国家です。セブにおいて日本人とわかるだけで、多くのフィリピン人の歓待を受けることも珍しくありません。このような状況を、戦後も多くの反日感情にあふれたフィリピン

ンから想像することは、とてもできません。

戦時中に日比両国の間に横たわっていた憎悪は、およそ70年余の時を経て友愛へと切り替わりました。

戦時の怒りを現在の友愛へと変えたのは、キリノ大統領に端を発する「許し」の精神であったことを、私たちは忘れるべきではないでしょう。

「許し難きを許す」という英断こそが、戦時と今を結ぶ架け橋となったのです。

日本とフィリピンの関係が、憎悪から友愛へと切り替わったシンボルとして建立されたのが「セブ観音」です。

ともに、セキュリティを強化するために監視カメラ等を設置したいと考えております。

現時点で金額は確定出来ておりませんが、今回は盗まれた光背と蓮の花の制作代金は新型コロナウイルスの影響で日本から運ぶことが難しくなりました。一旦保留するとして、これ以上被害を出さないための防犯監視カメラの購入と設備で約37万円と見積もっています。

セブ日本人会で予算を捻出できればよいのですが、会員数が100名前後と少ないため、非常に厳しい状況です。

セブ日本人会の会費は、日本人補習校の費用、家賃などに当てなければならず、残念ながら観音像の修復に回す余裕がありません。

そこで今回、皆様に、セブ観音像修復のための支援をお願いする運びとなりました。

ここまで紹介してきたセブ観音像の趣旨について理解していただける方がおられましたら、少額でも構いませんので、ご支援をお願い致します。

もちろんセブ日本人会では、今回で集まった金額の多寡にかかわらず、観音像の修復をなんとかやり遂げる覚悟です。

セブ日本人会の会員の多くは、現地に何らかのビジネスを展開しています。新型コロナウイルスによってもたらされた経済苦により、今は誰もが深刻なダメージを受けています。このままコロナ禍が続けばビジネスが立ちゆかなくなるため、セブ日本人会がなくなる可能性も否定できません。

それでも、これ以上被害を出さないための設備だけは2021年8月15日の慰霊祭までに、必ず成し遂げる所存です。どうぞ、ご支援をよろしくお願いします。

セブ観音は日本とフィリピンを友愛の輪で結びつけるシンボルです。

日本人もフィリピン人も、多くの遺族や関係者の方々がセブ観音を訪れては往時を偲び、慰霊の時を過ごします。

その際、背後にあった光背がむしり取られ、手にしていた蓮の花が折られてなくなっている無残な姿のセブ観音像をさらすのでは、あまりの申し訳なきに胸が痛みますが、まずはこれ以上の被害だけは避けたいと願っております。

遺族の方々に悲しい思いをさせたことはありません。修復することが最善ではありますが、それが難しい今、せめて現状のままの観音像を前に、慰霊していただきたいと切に願います。

そして、慰霊だけではなく、戦時に何があったのかを語り継ぐために、何を守るために若者たちが特攻で死んでいったのかを語り継ぐために、平和への誓いを新たにするため、セブ観音像の防犯カメラの設置にご協力いただければ幸いです。

最後になりましたが、セブを訪れた際には、ぜひセブ観音まで足を運んでみてください。死を覚悟してレイテ沖に飛び立った特攻隊員たちの思いを、戦禍に倒れた日比両国の民間人の無念さを、きくと感じ取れることでしょうか。

そのような悲惨な過去を経て、現在の私たちへと命は繋がっています。

戦火に包まれたあの日のセブと、平和に満ちた今のセブを、セブ観音がつないでいます。ご支援の程、どうぞよろしくお願い致します。

セブ観音は、レイテを含むセブ周辺の戦いで散華した日本兵と、軍とは関係なく戦禍の巻き添えとなった命を落とした日本の民間人の慰霊とともに、日本兵と戦って死んでいったフィリピン人兵士、そして犠牲となった多くのフィリピン人居住者の御魂を慰めるために建立されました。

そのため、毎年8月15日にセブ日本人会が主催して開かれる慰霊祭には、日本とフィリピン両国の戦没者の遺族が多数、集います。

また最近では、アメリカ人の参加も目立つようになりました。各種ボランティア団体の協力も受け、当時の記憶を風化させないための取り組みが行われています。

セブ観音こそが「平和のシンボル」であると、セブ日本人会では捉えています。

現在も運営を続けているホテルの一角に、セブ観音の建立を許していただけたマルコポーロホテルのオーナー夫妻に対しては、深く感謝して

おります。当時は日本兵の慰霊などとしてもないとする空気が強く、設置場所を探すだけでも大変でした。

そんななか、助け船をだしていただいたマルコポーロホテルについては、感謝の意に堪えません。

しかも、いつ訪れてもよいように銅像や敷地の手入れまで行っていただき、その厚情に関しても深く感謝致します。

多くの方々の支援を受けながらセブ観音像が建立され、今日まで維持されていることは間違いありません。

だからこそ、観音像の一部がもぎ取られ、盗まれたことは、多くの関係者に計り知れないショックを与えました。

この盗難事件を受け、マルコポーロホテルでは警備員による見回りを強化するなど、さらに手厚い支援を施してくれました。

しかしながら、いつまでもホテル側の厚意に甘えるわけにもいきません。そこで、観音像の修復を行うと

ともに、セキュリティを強化するために監視カメラ等を設置したいと考えております。

現時点で金額は確定出来ておりませんが、今回は盗まれた光背と蓮の花の制作代金は新型コロナウイルスの影響で日本から運ぶことが難しくなりました。一旦保留するとして、これ以上被害を出さないための防犯監視カメラの購入と設備で約37万円と見積もっています。

セブ日本人会で予算を捻出できればよいのですが、会員数が100名前後と少ないため、非常に厳しい状況です。

セブ日本人会の会費は、日本人補習校の費用、家賃などに当てなければならず、残念ながら観音像の修復に回す余裕がありません。

そこで今回、皆様に、セブ観音像修復のための支援をお願いする運びとなりました。

ここまで紹介してきたセブ観音像の趣旨について理解していただける方がおられましたら、少額でも構いませんので、ご支援をお願い致します。

もちろんセブ日本人会では、今回で集まった金額の多寡にかかわらず、観音像の修復をなんとかやり遂げる覚悟です。

セブ日本人会の会員の多くは、現地に何らかのビジネスを展開しています。新型コロナウイルスによってもたらされた経済苦により、今は誰もが深刻なダメージを受けています。このままコロナ禍が続けばビジネスが立ちゆかなくなるため、セブ日本人会がなくなる可能性も否定できません。

それでも、これ以上被害を出さないための設備だけは2021年8月15日の慰霊祭までに、必ず成し遂げる所存です。どうぞ、ご支援をよろしくお願いします。

セブ観音は日本とフィリピンを友愛の輪で結びつけるシンボルです。

日本人もフィリピン人も、多くの遺族や関係者の方々がセブ観音を訪れては往時を偲び、慰霊の時を過ごします。

その際、背後にあった光背がむしり取られ、手にしていた蓮の花が折られてなくなっている無残な姿のセブ観音像をさらすのでは、あまりの申し訳なきに胸が痛みますが、まずはこれ以上の被害だけは避けたいと願っております。

遺族の方々に悲しい思いをさせたことはありません。修復することが最善ではありますが、それが難しい今、せめて現状のままの観音像を前に、慰霊していただきたいと切に願います。

そして、慰霊だけではなく、戦時に何があったのかを語り継ぐために、何を守るために若者たちが特攻で死んでいったのかを語り継ぐために、平和への誓いを新たにするため、セブ観音像の防犯カメラの設置にご協力いただければ幸いです。

最後になりましたが、セブを訪れた際には、ぜひセブ観音まで足を運んでみてください。死を覚悟してレイテ沖に飛び立った特攻隊員たちの思いを、戦禍に倒れた日比両国の民間人の無念さを、きくと感じ取れることでしょうか。

そのような悲惨な過去を経て、現在の私たちへと命は繋がっています。

戦火に包まれたあの日のセブと、平和に満ちた今のセブを、セブ観音がつないでいます。ご支援の程、どうぞよろしくお願い致します。

※ご寄付のご依頼は別メールで、準備ができ次第お送りさせていただきます。お問い合わせは、PTNトラベル 検索

PTN TRAVEL CORP
女子旅
CEBU 最高!!

(+63)32-340-7910 PTNトラベル 検索
@zpq3556y info@ptn.com.ph

エメラルドグリーンダイビングセンター
Emerald Green Diving Center

☆☆ ジンベエツアー開催 ☆☆

日本人インストラクターが5人常駐!!ダイビングが初めての方やお一人で参加される方にも安心。少人数、安全そしてきめ細かなサービスで快適なダイビングを約束♪またセブ島の南サンタングー、モアルポアル、ボホールにも支店(もちろん日本人インストラクター常駐)がありますので、マクタン以外の海を潜りたいダイバーの方は、ぜひこちらも潜ってみてはいかがでしょうか?

電話: (032) 495-7728 or 495-8372
携帯: 0917-321-6349 (日本語可)
場所: Anemone Resort 内
Buyong, Maribago, Lapu-lapu City,

セブ島通信を見て事前にダイビングをご予約された方オリジナルTシャツ贈呈&ランチ無料!
プロモ期限: 当セブ島通信発行年月より1年間

広告掲載募集

★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール: info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。

★セブ島通信では、発行日(奇数月の月初)の1ヶ月前を締切として原稿を公募しております。

便利な IDカード

セブ日本人会では、協賛店／協賛ホテルでお得な特典を受けることができる ID カードを発行しております。緊急時の連絡先や簡単な身分証明としてもご使用いただけます。
会員の18歳以上の配偶者・ご子息に限り有料で発行いたします。

未だ ID カードの手続きをされていない会員の方もこの機会に取得されることをお勧めします。ID カードの更新、新規は無料です。紛失などで再発行の場合は実費費用負担をお願いしています。負担額は200ペソです。

セブの美味しい地鶏を食べに来ませんか?
Q-Bay Japanese Restaurant

Q-Bayは、オープンエアが気持ちいい気軽に立ち寄れる居酒屋です。一日の疲れを癒しに来ませんか。
焼き鳥は100年続く秘伝のタレと、塩からお選び下さい。長時間コトコト煮込んだこだわりのラーメンもどうぞ。
ランチメニューは ラーメン、丼など 全品200ペソ以下でご利用いただけます。

☎ 032-401-0402 ✉ qbayresto@gmail.com 📍 Q-Bay restaurant

By the way 4 Ground Floor IT Park, Lantap, Cebu City
月～金: 12:00～14:00 日～木: 17:00～25:00 / 金・土: 17:00～27:00

三河屋
日本食材あります

JAPANESE GROCERY CONVENIENCE STORE

三河屋 MIKAWAYA
@mikawayacebu

食材 日用雑貨
文房具 飲料

配達も承ります。

住所(マボロ): TAA Center Door 10, F. Cabahug St., Kasambagan
電話番号: +63 32 266 7954

セブ日本人会 協賛店／協賛ホテル一覧

食材店

町屋マート
三河屋

ホテル・ビーチリゾート

Movenpick Hotel Mactan Island Cebu
Shangri-La's Mactan Resort and Spa Cebu
Marco Polo Plaza Cebu Hotel
Waterfront Cebu City Hotel
Waterfront Airport Hotel
Waterfront Insular Hotel Davao
Jpark Island Resort & Waterpark Cebu
Maribago Bluewater
Blue water SUMILON ISLAND
Blue water PANGLAO BEACH
Lubi Resort Santander
Anemone Resort and Tours Cebu
Kandaya Resort Hotel

ダイビング・マリンスポーツ

アクアマリンオーシャンツアーズ (マリンアクティビティ)
ブダンディン・マリン・ダイバー
アクアパティス
エメラルドグリーン・ダイビングセンター
—マクタン店
—サンタンダー店
—モアルポアル店
—ボホール店

飲食店

【マンドウエ市】

オイスターベイ (シーフード)
スキレット (和洋食)
HAPPY SUMO (和食)
Tao Yuan (中華料理)
松之屋 (和食)

【マクタン島】

Oishi Cebu Japanese Restaurant / 旧だるま (和食)
空海 (和食)
夜桜 (和食)
マリバゴグリル (フィリピン料理)

【セブ市】

はる / 旧さっちゃん (お好み焼き)
—タランバン店
悟空 (和食) マボロ店
ミッキーズ (ケーキ)
Q兵衛 (和食)
TYMAD BISTRO (フランス料理)
夢屋喜兵衛 (和食)
AMPERSAND (西洋料理)
寿や (ラーメン)
秋田 / AKITA (和食)
Mio Cafe and Restaurant (フィリピン料理)
韓陽苑 (焼肉レストラン)
幸 全店 (日本食レストラン)
麻布 (日本食レストラン)
Circa 1900 (洋食)

一路発 (ラーメン)

但馬屋 (焼肉)
Jazz'n Bluz Bar & Restaurant

美容・健康

ワウ・セブ歯科医院 (歯医者)
スマイルデンタル (歯医者)
Japanese Tea Lounge (マッサージ)
AVALON SPA (マッサージ) マンドウエ市
ProDent Advanced Oral Health (歯医者): セブ市)

レジャー・スポーツ

セブトップ (遊覧飛行、体験飛行)

その他

Character Studio (オリジナルグッズ)
誰でもヒーロー (ボランティア)
NPO セブンスピリット / Sevnsprit (ボランティア)
ジャパン支援センター (退職者ビザサポート)
QQ English (英会話学校)
DT Cebu (翻訳・年金申請業務)
Sky Water Park (プール & レストラン)
Wabi Linkage Corporation (翻訳業務)

旅する

フレンドシップツアーズ
KSB トラベル
AS レンタカー

割引き、もしくは特別サービス御座います。必ず会員証をご持参ください

広告募集中です。セブ島通信の発行費は広告料金でまかなっています。ぜひご協力ください。

【広告料金】 ① 3分の1 2段 800ペソ
② 2分の1 2段 1,200ペソ
③ 3分の2 2段 1,600ペソ
④ 全幅 2段 2,400ペソ

【お願い】 ① 最低6ヶ月は継続してください。
② この3号分は同一原稿です。
③ お支払は前払原則です。
④ 完成した原稿をお持ちください。

【お申込みは】
セブ日本人会事務局
電話: 032-343-8066
FAX: 032-343-7663

サイトのウの
ガジェット通信



Vol.4

学校チャイム音が
お子さんの人生を変える(かも)!

斉藤 淳



家にお子さんがいて、中々勉強が進んでいないで困っているご家族の皆様。もしくは自分が仕事を家でしようとしているけど、中々捗らない会員の皆様に緊急のお知らせです。

そもそも、我が家には3歳半の息子がいるのですが、学校に出かけることができない以上、自宅で勉強を少しでもさせないといけません。

しかしながら、これが難しい……。途中でだらけてしまうんですね。途中で

で子供も飽きてしまおうし、親もだらだら勉強を手伝ったり、そうでなかったり…こんな状態になっていませんか？

そんな時にポッドキャストとか何かで耳にしたのですが、オフィスにアラームを付けると仕事が捗ると聞きました。

「ほー、なるほどー」と思って早速LAZADAで購入しようと思ったのですが、これがない。まあ、あるわけがありませんし、あつてもガジェット系は全く信用ができない。

そこで、最近海外にもデリバリーをしているアマゾンで検索しました。すると、この商品が目についたんですね。

セイコークロック BC412W

価格は6700円ちょっと、デリバリー費用を含めると8000円前後だったと思います。

物は試しに、これで変わるのなら実際に購入してみました。

すると…、これが非常に良い!

午前中は学校のチャイムの音をセットしているのですが、大人も時間になると気づきます。そして、「チャイムがなったから勉強の時間だよー」といえば、子供も(ある程度ですが)素直にきくようになりました。

我が家では50分に鳴って、00分にも鳴るように設定しているため、メリハリがつくようになりました。a

家で学校のように、過ごすことができるようになるわけです。

実際にキーンコンカーンコンと、学校のチャイム音がです。

ぜひご自身の仕事のパフォーマンスが上がる場合や、お子さんのパフォーマンスが上がる場合、これを導入して頂ければと思います!

私のマーゴロな
ご近所

水野

相変わらずコロナ禍のフィリピン。あれよあれよという間に世の中が変化していく。

私の住むあたりはリゾートホテルが立ち並び、コロナの前は外国人がたくさんいて、観光客相手の商売をしている人も多かった。ホテルで働く人、アイランドホッピングやダイビング関連の商売をしている人、観光客相手の土産物やマッサージ、レストランなどで働く人などなど。突然、外国人観光客が入国できなくなり、またいつ戻ってくるのかの見通しも立たず、収入の道を絶たれた人たちがあふれるだろう。と、当初から私は治安の悪化を心配していた。

しかし、あくまでも今のところは、そう変化したようには感じない。借金の申し込みも相当に来るのだろうと覚悟をしていたが、今まで貸したものはきっちり回収するという強い意志で接してきたことに関係しているのとはわからないが面と向かって依頼してくる人はこれまでいない。一人だけ夫を通していくらか貸してくれたと言ってきた人がいた。こんな時だから困ったときはお互い様と了承したが、取りに来た娘は髪を金髪に染めて食うに困っているように見えなかったのだ。なんかモヤモヤしている。

隣の叔父さんの家は、アイランドホッピング用の船を何艘か持っている。コロナの前には割と羽振りがよかったが、今は雑貨屋を真面目に経営している。以前からこの雑貨屋はやってきたのだが、おそらくそんなに切羽詰まって商売をしなくてもよかったのだろう、気まぐれに店を開

けていた。惣菜やバーベキューなどはなかなか味もいいのだが、何しろ開いている時間の方が短かったので、なかなか利用もできなかった。しかし今は商品の品ぞろえもなかなかでコンビニが隣にできた、みたいな便利さだ。しかも朝から夜まで開いているので、コロナ禍になり頻繁に利用し始めた通販の受け取りもしてくれる。

ヤシの実ジュースを売る店も近所にできた。アイランドホッピングなどで島に行くと、頼んでもいないのに割ってストローを刺したものを差し出され、驚くような値段で売り付けられることがあったが、フィリピン人はこのヤシの実ジュースを健康ドリンクとして飲むらしくなかなか繁盛している。手頃な値段であるため、私もしばしば利用している。

また鮮魚を売る店も出てきた。たらいを頭に乗せ売り歩く人は以前からいたが、なかなかほしいタイミングに出会わなかったりする。歩いて行ける距離に店を出してくれているとほしいときに買える。海の中できれいな魚だね、と観るような小さい魚はどうやって食べるのかも、そもそも食べる身があるのかもわからないので買ったことはないけれど、アジ? イワシ? かつお? みたいな魚を買ってきて、ユーチューブを見ながら捌いている。私ではなく息子が。まあ、店といっても家の前に机を置いて売っているだけなのだが、あれこれ考える前に始めてしまったような感じは否めないしそもそも商売として成り立っているのかも怪しいが、できるだけ利用し応援したいと思っている。

またこのあたりではバンを購入し、観光客相手に運転手付きで貸し出すのが流行っていたのだが、それらのバンは今ではみんな工業団地の従業員の送迎に使われているようだ。いろいろな企業名が貼られたバンが夜になるとそこら中に停まっている。

両替屋を営んでいた親戚は、新たに駐車場をオープンさせた。こんなところで洗車する人なんているのか? と思っていたが、これが意外なくらいに客がいる。しかもどれもみんな高級車ばかりで、お金持ちの世界がこんなマクタン島の端っこにも存在していたことに驚いた。

車といえば、隣の叔父さんの息子が、近頃アマゾンの奥地にいそうなカエルのような色の車を乗り回している。こんなご時世にまさか買ったのか? と思ったら、仲のよかった台湾人が帰国をするので、預かったという。一時的な帰国なのか、帰ってこないのかは知らないが、とりあえず隣の息子は我が物のように乗り回している。

キャッシュレス化の流れも加速している。フィリピンでキャッシュレスなんて恐ろしいと思いついたが、やむに已まれず利用すると、これはかなり便利であった。スマホさえあればできるので、アカウントをもっていない人には会社の回し者のように半ば無理やり作らせたりして、現金のやり取りを減らしている。今まで毎月支払わなくてはならない電気代やインターネット代などは、ショッピングセンターの支払いカウンターでしていたが、30分から1時間待たされることも当たり前だったが今は家にいながらいつでも支払える。

日本のミュージシャンのライブ配信なんてものも観られるようになった。ライブなんて「そこに行かなくちゃ意味ないじゃん」なんて思っていたが、これまた予想以上に心が沸き立つ。もしかしてわざわざ日本に行かなくてもいいかな、くらいの気分になる。

まだまだ先も見えず、これからどうなるかはわからないけれど、今のところ私の周りの人たちはたくましく生きていますし、私は以前よりもしかしたら快適に暮らしているかも、と思ったりもしている。

広告掲載のお礼

この度フリーペーパー各社(セブトリップ、咲楽、セブポット様)のご厚意により日本人会の情報、お知らせを無料で掲載していただくことになりました。いろいろな情報がたくさんの方に発信できるようになり関係者一同喜んでます。この場を借りて御礼を申し上げます。

セブ日本人会 会長 松田和人



★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール: info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
★セブ島通信では、発行日(奇数月の月初)の1ヶ月前を締切として原稿を公募しております。